

vol.3

「元型」について

文 島田 雅彦

text by Masahiko Shimada

占領時代が終わっても、永続的に対米従属が続く日本にあって、私たちは自らを隷属から解放することはできるのか？この疑問を解決するには黒船来航以来の近代史を網羅し、また敗戦後の占領政策とそれ以後の日米関係を精査しなければならないが、もしかすると、もっと古くから日本人の意識を蝕んでいる宿痾しゅくあのような心性があるのではないか？

ユングは、人間の心は三層構造になっていると考えた。自我を核とした「意識」の層、個人的な経験に由来する「個人的無意識」の層、そして心の最も奥深くにある人類や動物にも普遍的な「集合的無意識」の層である。誰もが個人的な意識や無意識を超え、遠い祖先の時代から崇め奉り、恐れおののいてきたものに思考や行動を左右されてしまう。それを魔物とか憑き物と呼ぶか、呪いとか祟りと呼ぶかは人それぞれだが、現代人であっても、神話や伝説、迷信に深く囚われているのは確かである。人の意識は長年にわたり、刷り込

まれてきたイメージに縛られるという。クリスチャンなら聖書の、ムスリムならコーランの、仏教徒なら説話の物語、あるいはどの民族も古い民話のストーリーとイメージがその人の思考を左右するという。これはユングが説く「元型」というものだ。

人類の無意識には様々な元型が埋め込まれていて、創造者、主導者、世話人、お調子者、愛好者、無邪気、冒険者、賢人、魔術師、英雄、反逆者、孤児など全部で十二種類を提示した。誰でもそれらの元型のいずれかに当てはまるような気がするところは、星占いや動物占いのようなものだとも言える。そうした元型は歴史的な体験と記憶を通じ、変容し、加工されてもきた。神話や伝説の登場人物たちは様々なトラウマを背負っており、それは子孫である我々にも受け継がれ、各時代の経験と記憶によって強化され、子孫の行動をも左右する。もし、そうしたトラウマを克服できたら、冒頭の疑問への答えは「イエス、ウィー・キャン」となる。

Profile

1961年東京生まれ。1984年東京外国語大学ロシア語学科卒。在学中の1983年『優しいサヨクのための嬉遊曲』でデビュー。主な作品に『自由死刑』、『退廃姉妹』（伊藤整文学賞）、『悪貨』、『虚人の星』（毎日出版文化賞）、『君が異端だった頃』（読売文学賞）ほか多数。『忠臣蔵』、『Jr. バタフライ』のオペラ台本もある。芥川賞選考委員。法政大学国際文化学部教授